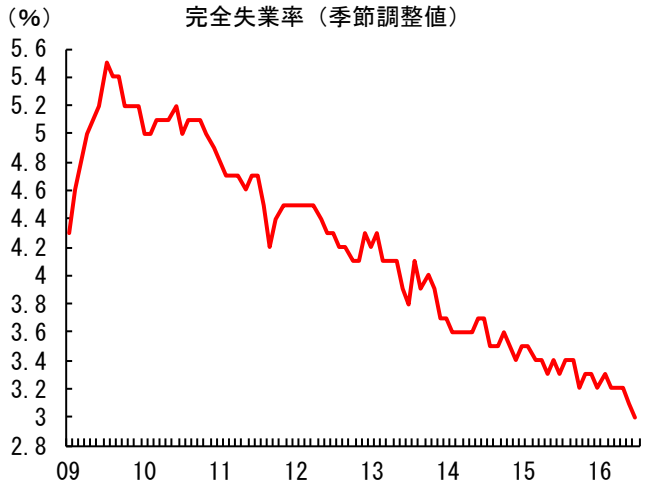
# テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2016年７月）

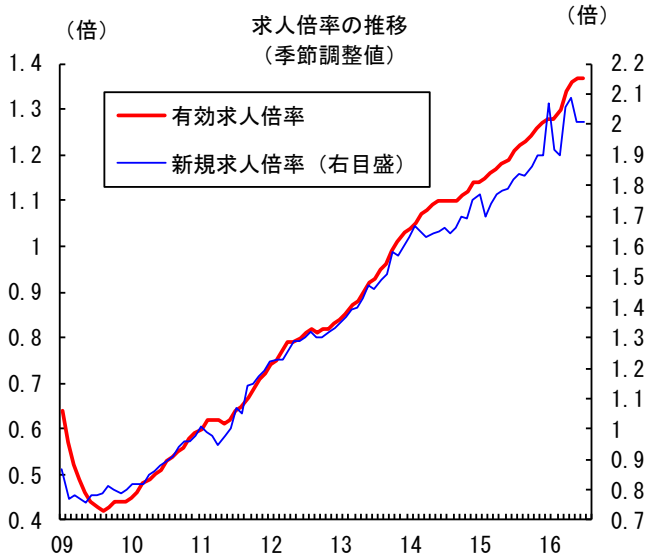
発表日：2016年８月30日（火）

～失業率２％台も視野に～

第一生命経済研究所　経済調査部
担当 主席エコノミスト　新家 義貴
TEL：03－5221-4528




（出所）総務省統計局「労働力調査」
（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値




（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

## ○雇用情勢は非常に良好

総務省から発表された2016年７月の完全失業率は3.0％と、前月から0.1％Pt改善した。市場予想（3.1％）対比良好な結果で、ついに２％台をうかがう水準までやってきた。引き続き、労働需給が非常に引き締まった状態にあることが示されている。また、労働参加率の上昇を伴う形での失業率の低下となっており、見た目以上に良好な結果といえる。

実際、季節調整済みの就業者数は前月差＋20万人（６月＋47万人）と大きく増加、雇用者数も前月差＋11万人（６月▲１万人）と増えている。就業者数、雇用者数とも引き続き明確な増加基調にある。また、前年比でみると就業者数が＋1.5％、雇用者数が＋1.6％と高い伸びとなっている。就業者数、雇用者数とも、昨年と比べて伸びが拡大傾向にあり、雇用が着実に改善していることがみてとれる。

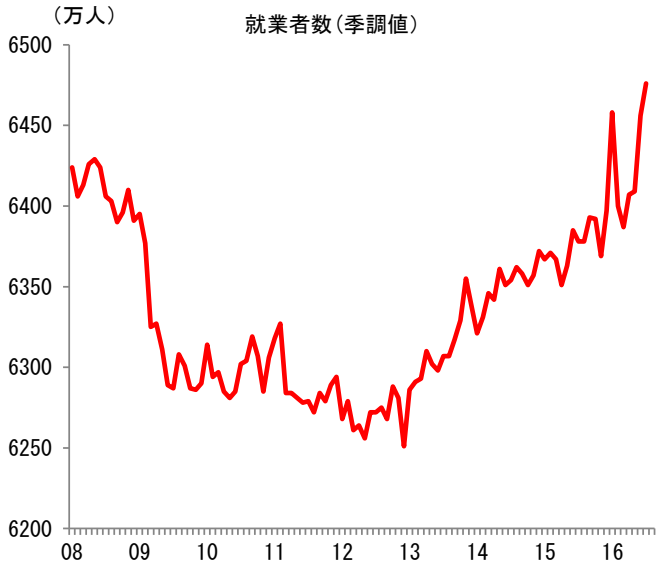
なお、雇用増を牽引しているのは女性である状況は変わっていないのだが、昨年夏頃からは男性の雇用者数も季節調整値でみて増加傾向になっている。この点も好材料といえるだろう。

## ○ 求人も好調持続

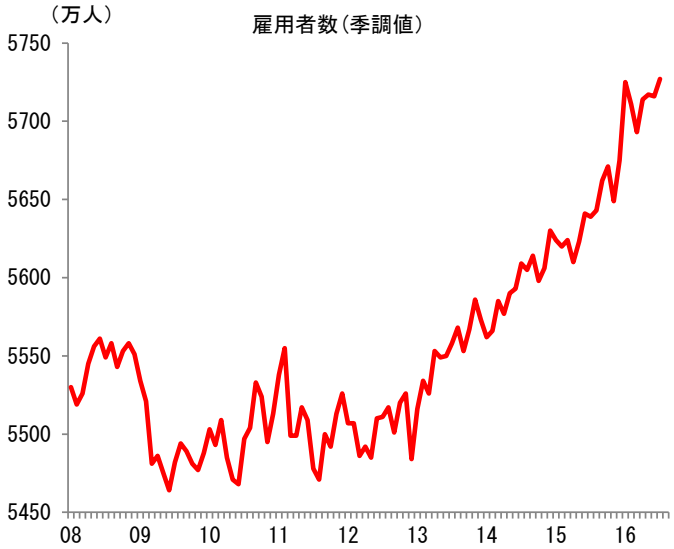
厚生労働省から公表された16年７月の有効求人倍率は1.37倍、新規求人倍率は2.01倍となった。どちらも前月と同水準。有効求人倍率は1991年８月以来の高水準であり、労働需給の引き締まりを示す結果といえる。また、より企業の求人意欲の実態を示す求人数を見ると、有効求人数が季節調整済み前月比＋0.7％（６月：＋0.4％）と４ヶ月連続で増加、新規求人数も前月比＋1.4％（６月：▲2.3％）と増加している。新規求人数はこのところ振れが大きいが、均せば順調で、求人の増加傾向に変化はない。このように、雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを持続する可能性が高いと思われる。失業率の２％台突入も、近いうちに実現する可能性が高いだろう。景気は停滞感の強い状態

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

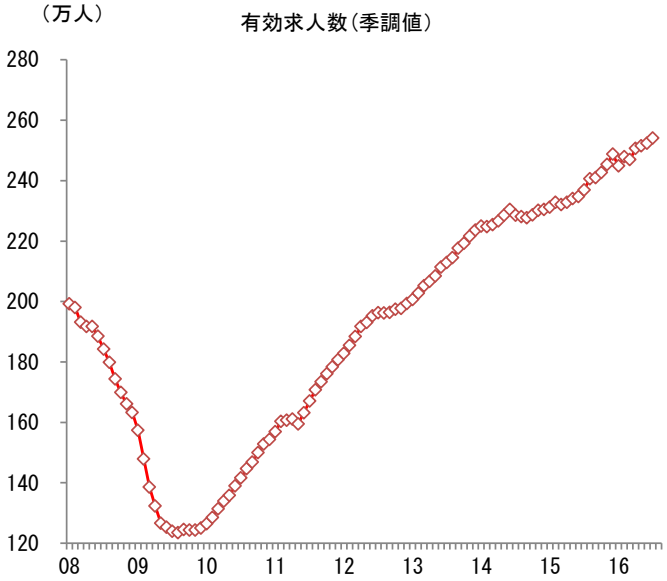
が続いているが、こと雇用情勢に関してはむしろ加速しているようにも見える。こうした良好な雇用情勢は、景気の停滞感が強いなか、数少ない好材料である。



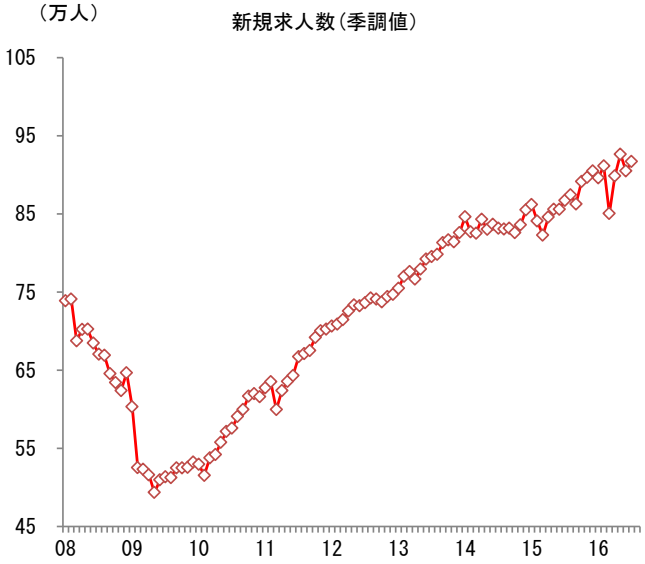

（出所）総務省「労働力調査」




（出所）総務省「労働力調査」




（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」




（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。